

令和7年度 高崎中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立高崎中学校		校長名	上村 剛史	
学級数	7学級	児童生徒数	165名	職員数	19名
教育目標	豊かな心と確かな学力をもち、健康でたくましい生徒の育成				

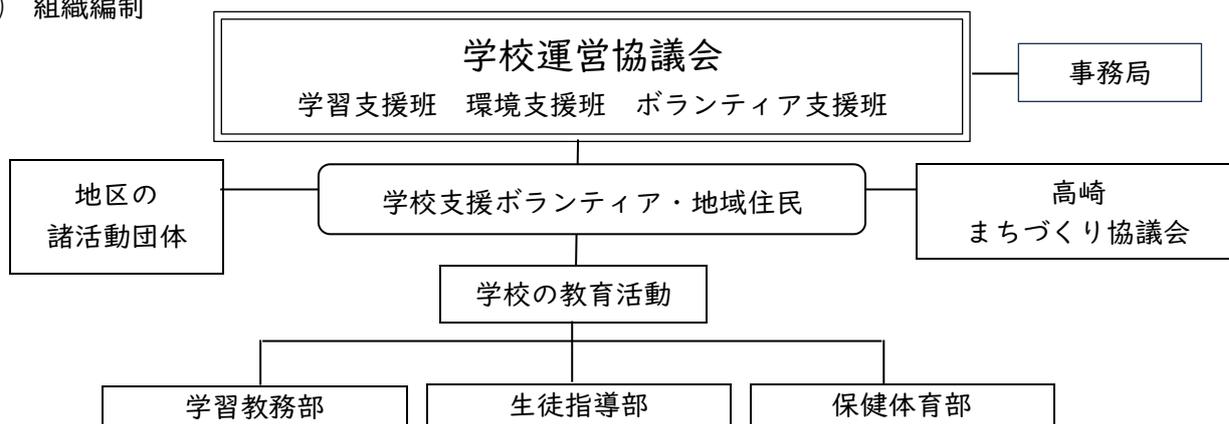
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計3名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	元御池青少年自然の家副所長	谷口 俊一	委員長
2	主任児童委員	坂元 文子	
3	元PTA副会長	金丸 正広	
4	PTA会長	古川 宏志	
5	都城市高崎学校給食センター所長	柿木 賢一	
6	都城市社会福祉協議会統括マネジャー	星村 太一	
7	高崎養護老人ホームたちばな荘施設長	山田 真一	

事務局	役職	氏名
	校長	上村 剛史
	教頭	蓮井 伸二
	事務主事	中西 礼子

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	○ 学校運営協議会委員選出
5月17日(土)	○ 体育大会参観
5月30日(金)	○ 第1回学校運営協議会 委嘱状交付、協議会の趣旨説明、年間活動計画学校経営ビジョンの説明
7月1日(火)	○ 第2回学校運営協議会 授業参観、学校の現状説明、学校評価項目検討協議「今後の活動について」
8月4日(月)	○ 第3回学校運営協議会（高崎地区合同学校運営協議会） 各校の実践報告 協議「地域と学校が連携して『人間力』と育てるにはどうあればよいか」
10月12日(日)	○ 文化祭「紅葉祭」参観
12月9日(火)	○ 第4回学校運営協議会：授業参観、学校評価計画、面接指導計画
2月12日(木)	○ 第5回学校運営協議会：学校評価の結果分析・考察、次年度に向けて
2月20日(金)	○ 立志式臨席
3月16日(月)	○ 卒業式臨席

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

8月4日（月）「地域と学校が連携して『人間力』と育てるにはどうあればよいか」

- ・ 生徒が、地域の人と交流する企画を考え、地域へ提案していく。
- ・ 地域の人に話をしてもらおう機会を学校で企画する。
- ・ 地域の防災訓練を企画し、児童生徒も参加するようにする。
- ・ 地域のイベントへの児童生徒の参加を学校が促す。
- ・ 昔ながらの地域の行事を大切にする。
- ・ 生徒も参加して地域ごとの清掃を行う。
- ・ 学校の環境整備に地域の人も参加する。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

・ 地域人材の活用

総合的な学習の時間に実施した活動の際に地域の方に協力していただき、大変有意義な活動となった。1年生の地域探訪において、まちづくり協議会に案内・説明をしていただいた。2年生の平和教育において、語り部の方に戦争の体験談を話していただいた。3年生の地域を考える活動において地域の方に生徒のグループ討議に加わっていただき、意見やアイデアをいただいた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

・ 校時程変更

生徒の「計画性のある生活」「個性を磨く時間の確保」また、教職員の教材研究や研修の時間を確保して、質の大会教育を実践していくため校時程の見直しを行った。その際、学校運営協議会で意見を伺い、変更の参考にした。

(3) 地域貢献活動

学校運営協議会や地域の団体から12のボランティア活動の要請があり、延べ人数200名以上の生徒が地域のボランティアに参加することができた。

① 「高崎春まつり」「高崎夏祭り」

高崎商工会青年部からの要請で、4月の春まつりと8月の夏まつりの前日準備、当日の運営ボランティア活動を行った。

② 「どろんこバレーボール」

6月に行われた高崎どろんこバレーボール大会の当日の運営ボランティア活動を行った。

③ 「秋の交通安全運動」

たちばな奉仕クラブの要請で、9月の交通安全運動の際に、交通安全意識の高揚を図るために、交通安全運動リーフレットと冷茶を配付した。

④ 「高崎クロスカントリー大会」

高崎総合支所の要請で、12月の「高崎クロスカントリー大会」の運営ボランティアを行った。

⑤ 「鬼磐階段かけ上がり競走」

2月に行われる東霧島神社「鬼磐階段かけ上がり競走」の運営サポートとしてボランティア活動を行う。



【たかぎ北斗鍋フェスタボランティア】



【たちばな夏釣りボランティア】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 年間5回の学校運営協議会を実施することにより、積極的に学校運営に携わっていただいた。協議の前には授業を参観してもらい、学校の様子を知っていただけた。また、体育大会、文化祭、立志式などの行事にも来賓としてご来校いただくことで、学校の教育活動について共通理解を図ることができた。
- 地域から多くのボランティア活動の協力依頼があり、学校から地域への貢献する活動を実施することができた。また、委員の方から地域の方を紹介していただき、各学年の活動に地域の方に参加してもらおうことで、充実した活動となった。
- 学校が取り組んでいる「授業の工夫」や「学習支援」が保護者や地域にうまく伝わっていない現状があるので、どのように伝えていくかを検討する必要がある。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会から地域団体に協力依頼を行い、更に、地域の方々からの学校支援受け入れに力を促していきたい。
- 学校運営協議会の班別（学習支援、環境支援、ボランティア支援）協議を充実させることにより、学校運営協議会の主体的な活動を行っていききたい。